

国絵図ニュース 26 号

2011.2.9 発行 国絵図研究会 TEL&FAX : 029-228-8294
〒310-8512 水戸市文京 2 丁目 1-1 茨城大学教育学部 小野寺淳研究室
HP : <http://www.kuniezu.net/>

第 29 回国絵図研究会 金沢大会開催の御案内

今回の国絵図研究会は、野積正吉氏にお世話をいただき、下記のように開催することになりました。皆様のご参加をお待ち申し上げます。宿泊につきましては各自でご予約下さい。繁華街の片町周辺か金沢駅前が便利です。なお、参加の申し込みは同封の葉書で **2 月 28 日必着**にてご返送下さい。

2011 年 3 月 8 日 (火) 絵図熟覧会・研究会・懇親会

9 : 30 ~12:00 石川県立図書館 (金沢市本多町 3-2-15、076-223-9565)

加賀・能登・越中元禄国絵図 3 点

13:30 ~16:45 石川県立歴史博物館 (金沢市出羽町 3-1、076-262-3236)

加賀・能登正保国絵図 2 点、元禄の縁絵図 (加賀・越中分) 15 点、明治能登国絵図 1 点

17:00 ~18:30 研究報告会 石川四校記念文化交流館 (金沢市広坂 2-2-5、076-262-5464)
2 階 多目的利用室 2

研究報告プログラム

平井松午・野積正吉「

川村博忠「本研究会朝鮮古地図調査で実見した奎章閣蔵『海東三国図』の概要」

野積正吉「加賀藩における延宝国絵図の作成」

19:00~ 懇親会 「ぼんぼり」 (金沢市木倉町 1-5、076-263-3555) 会費 6,000 円

2011 年 3 月 9 日 (水) 絵図熟覧会

10:00 ~12:30 金沢市立玉川図書館 (金沢市玉川町 2-20、076-221-1960)

加賀・能登正保国絵図 2 点、加賀・能登延宝国絵図 2 点、加賀・能登天保国絵図 (切り分け) 2 点

※午後のお帰りに余裕がある方は昼休みを挟み午後の閲覧も可能 (～15:00)

会費納入のお願い

本年度から振替用紙を同封し、個別に何年度分をお支払いいただくかを明記させていただきました。研究会に参加された方は、その都度頂いておりましたが、今年度からは振替用紙を同封いたしますので、ご面倒でも郵便局より会費を送金くださいますよう、お願い申し上げます。振込手数料はご負担下さい。なお、しばらく会費を納入いただいていた方には、数年度分まとめた請求となり、たいへん申し訳ありませんが、ご理解の程お願い申し上げます。

会費請求につきましてご不明な点がございましたら、研究会事務局までお問い合わせ下さい。

研究会費 一般:2,000 円、学生・院生 1,000 円

国絵図研究会 TEL&FAX : 029-228-8294

〒310-8512 水戸市文京 2 丁目 1-1 茨城大学教育学部 小野寺淳研究室

加入者名 : 国絵図研究会 振替口座 : 00120-6-18473

朝鮮古地図管見記

礪永 和貴

はじめに 国絵図研究会では、2010年9月1～4日にソウル大会を行った。海外で初の研究会でさまざまな困難があったが、充実した会となり大成功であった。日程は、9月1日にソウル集合、2日に韓国国立中央博物館・ソウル歴史博物館、3日にソウル大学校奎章閣の調査と韓国国立中央図書館の古地図展を見学した。

今回のソウル大会では様々な方にお世話になった。特に楊普景先生（誠信女子大学教授）には、大会の全般にあたって誠心誠意、優しく的確なご指導を賜り、我々の希望をかなえていただいた。また、崔吉城先生（東亜大学教授・広島大学名誉教授）には、楊普景先生をはじめ韓国の諸機関に対しての再三にわたる相談と連絡に労を惜しまずご協力をいただき、ソウルまでご同行いただいた。両先生に対し深くお礼を申し上げたい。また、ソウル大学校奎章閣の古地図を復刻出版している「民俗苑」にも全面的な協力を賜った。最後になるが、逐一お名前は控えるが、見学した各館の関係各位に深く感謝申し上げたい。

さらに、科学研究費補助金・基盤（A）『『地図史料学の構築』の新展開』[代表・杉本史子（東京大学史料編纂所准教授）]との共同調査で、より多くの成果をあげることができた。特に、調査の記録と写真撮影、その他様々雑用を快く引き受けていただいた吉田悠子氏と横地留奈子氏にお礼申し上げたい。

以下、筆者は日本図が専門であるので、印象記の域をでないが、韓国国立中央博物館・ソウル歴史博物館、ソウル大学校奎章閣で調査できた古地図の概要を書きとどめておく。

韓国国立中央博物館 韓国国立中央博物館では、「中國地圖」、「九州圖」、「里程表入八道精圖」、「地圖」の4点の調査を行った。

「中國地圖」は図そのものには「天下諸図」「中國」とあって、おそらくは次に触れる「九州圖」のように冊子として綴じられていた図の「中國」部分のみが分離されたものと考えられる。

「九州圖」は冊子状に綴じられ、「天下図」（いわゆる当時の世界図）に始まり、「中國」「東國八道大總図」「日本國」「琉球國」「京畿道」「咸鏡道」の7枚となっていた。各図は一枚ものである。それを冊子に綴じたものである。日本の折本のように、経本のように長い図を折ったものではなく、一枚の図を綴じたものである。また、朝鮮の行政区画である道（八道）ごとに「京畿道」「咸鏡道」と綴じられ、図の四辺にその隣接図の情報が書かれている。しかし、次の「里程表入八道精圖」にみられるような「縮尺目盛り」はなく、朝鮮の概略をまとめた略図といったものであった。現在は、7枚からなっているが、もともとは、朝鮮八道が揃っていたものかもしれない。

「里程表入八道精圖」は、「朝鮮全図」とその行政区分である「八道」の各図8枚、計9枚の図を冊子として綴じたものである。全図と道図の表と裏には行政地名や距離表などの詳細な地誌情報が記されていた。また、「縮尺目盛」がみられ、明らかに簡略な測量をともなったことを伺わせる。

「地圖」は小型の図であり、やはり「朝鮮全図」と行政区分の「八道」の各図の八枚、計九枚からなっていた。やはり詳細な地誌情報が図の表裏に詳細に書き込まれている。また、縮尺目盛りがみられ、上述した「里程表入八道精圖」を持ち運びが便利のように縮小したのであろうか。官吏が携帯用に持っていた図という印象であった。

韓国国立中央博物館の4点は、天下図（世界図）・中国・日本・琉球の各図（以上は、図によって選択が異なる）・朝鮮全図・各道図が冊子からなるという古地図の一つのパターンを示している。天下図・中国・日本・琉球図は、何らかの図を書写したものであろう。

これに対して、朝鮮全図と各道図は、「九州図」のように略図ものと、「里程表入八道精圖」のように縮尺をともなった簡略な測量によったもので、詳細な地誌情報ともなったものに分類できることが把握できた。

「里程表入八道精圖」は、各八道図を編集して朝鮮全図を作成したのではなく、朝鮮全図を作成して各八道図を作成したように解釈されているようである。日本の場合は、国絵図を編集して日本全図が作成されているので、逆の方法がとられたとようであるが、この点についてはさ

らなる研究の余地があるものと考えられる。

ソウル歴史博物館 ソウル歴史博物館は、楊普景先生の師である故李燦先生のコレクションを中心に調査を行った。調査したのは、「輿地圖」「朝鮮古今大総便覧圖」「東國地圖」「天下総圖」の4点であった。

「輿地圖」は、図の表紙には「地図」とあって「天下図」「中国」「日本」「琉球」「東国八道大總」「八道」の張り紙があり、冊子形態で13枚からなっており、縮尺目盛りがないものであった。上述した韓国国立中央博物館の「九州図」と同系統の図である。

「朝鮮古今大総便覧圖」は朝鮮全体を1枚にまとめた刷り物の図であった。ほぼ長方形に朝鮮全体を描き、1枚の紙に略図としてまとめたもので、日本のいわゆる版本に近いものであった。ただ、図の一面に様々な地誌情報が載せられている点がことになっている。民間で出版されたものであろうが、地誌に関する文字情報に日本の古地図との差があるように思われた。

「東國地圖」は、八枚の「道図」からなるものである。本図には升目や角筆・ヘラ跡と推測される痕跡があり、図の作成過程の知る上で貴重なものである。図の枠目には番号が振られており、それらは連続している。図の接合部分は、ダブって書写している。ただ、ダブっている部分がまったく同じとは言えない。すなわち、これらの八枚の道図を接合して、朝鮮全体の図を作成したのか、朝鮮全体を描いた図から枠目などを利用して道図を作成したかは判断できなかった。この図には「百里尺」と記された縮尺目盛りが記されており、同縮尺で描かれていることも確認できる。「東國地圖」は、朝鮮の古地図作成を考える上で重要な図と考えられる。

「天下総図」は、いわゆる朝鮮の世界観を表した「天下図」であった。

ソウル大学校奎章閣 ソウル大学校奎章閣は、李氏朝鮮の王立図書館を起源とする。韓国の古地図の最高峰を収蔵している施設である。同館では12点の絵図を1日かけてゆっくりと閲覧・調査ができた。

閲覧・調査できた絵図を描いた地域ごとに整理すると、①朝鮮の八道を分割して描いている「八道地圖」「朝鮮八道地圖」、②朝鮮全体のみを描いている「我國總圖」「大東總圖」「海東地圖」「海東輿圖」「朝鮮全圖」「八路總圖」③朝鮮・中国・琉球・日本を描いている「輿地圖・我國總圖・朝鮮・日本琉球國圖」「海東三國圖」「華東古地図」となる。

①は、韓国国立中央博物館の「里程表入八道精圖」、ソウル歴史博物館の「東國地圖」と同系統の絵図で、朝鮮の八道を分割して描いたものであり、縮尺目盛りがある点で一致する。②の朝鮮全体を描いた図には、3群に分類できるように考えられる。第1群のものとしては、①の朝鮮の八道を分割した図との関係が想定されるものであろう。「我國總圖」「大東總圖」などは、その典型例のように思われる。第2群は、朝鮮の八道を分割した図と関係が想定されないものである。「海東地圖」「海東輿圖」などがその例としてあげられよう。第1群と2群の差は測量との関係、時代差(手描き図から測量図へ)、官か民によるかなどの総合的な検討が求められる。

さて、今回の調査で最も注目したいのは、第3群の図である。「朝鮮全図」「八路總圖」であった。両者ともにほとんど墨書で描かれており、いわゆる下図を想起させるものである。第1群の朝鮮の八道を分割した図との関係が認められ図を考える上で重要とあると考えられる。すなわち、朝鮮の八道を描いた図が当初作成され、次に第3群の下図が作成され、さらに完成図としての第1群の図が完成したと推測することが考えられる点である。

③朝鮮・中国・琉球・日本を描いている図は、朝鮮半島における三国、すなわち朝鮮・中国・日本に対する地図観が時代とともに変化していることを表すものとして興味深かった。作成年代として最も古いと考えられる「華東古地図」は、中国全体を中心に描き朝鮮半島は狭い、さらに日本にいたっては琉球・対馬のみを確認でき、日本本土自体は描いていないようである。これに対して、「輿地圖・我國總圖・朝鮮・日本琉球國圖」は、朝鮮半島が中心で詳しく、ついで朝鮮と接する地域、琉球、旧国名のみに限られる日本と、その関心が徐々に薄れている。「華東古地図」は、朝鮮・朝鮮に隣接する中国、日本の情報が極めて詳細に描かれている点で興味深い。日本への関心が強くなっている点に注目される。

おわりに

本格的に朝鮮の古地図を調査したのは初めてであった。図録をみるのと現物を見るのには大きな差がある。私としては、日本の古地図との違いを意識しながら調査し、その違いがおぼろ

げながら見えてきたように思う。参加者各位もまた同じ思いを抱かれたのではなかろうか。東アジアにおける古地図の比較研究が益々進むことを祈りたい。

なお、ソウル大会の参加者は、以下の13名である(敬称略)。崔吉城(東亜大学教授)、川村博忠(元山口大学教授)、倉地忠直(岡山大学教授)、平井松午(徳島大学教授)、藤田裕嗣(神戸大学教授)、磯永和貴(東亜大学准教授)、杉本史子(東京大学准教授)、青木充子(国絵図研究会)、国木田明子(神戸市立博物館学芸員)、田中耕市(徳島大学准教授)、吉田悠子氏(学習院女子大学研究員)、横地留奈子氏(東京大学学術支援職員)、楊普景先生(誠信女子大学教授)

放置していた李燦先生との約束

川村博忠

今回ソウルへの古地図調査の旅でもっとも楽しみにしていたのは奎章閣所蔵『海東三国図』の閲覧であった。12年前に故李燦先生との約束事を果たさないまま放置していた仕事が出来ればとの思いがあったからである。2000(平成12)年にソウルで開催された第29回国際地理学会議へ参加した折、ひとりでぶらりとソウル大学の奎章閣を訪ねたところ、日本を含む東アジアの大型の手書き彩色図が展示されているのを観て目を見張った。中国大陆の沿岸部から朝鮮半島へ続き、その東南には海を隔てて日本と琉球が描かれている。とりわけ驚いたのは描かれる日本列島の大きさと地名記載の豊富さであった。一般に見られる李氏朝鮮時代の古地図では朝鮮半島に比べて日本ははるかに小さく描かれるのが通常である。それに対して展覧の図では日本列島が朝鮮国の倍以上にも大きく描かれていた。

帰国後にその地図の写真版が入手できないかと故李燦先生に手紙を出したところ、遠からず大きく引き伸ばした当該図の印画写真が大人の背丈ほどもある円筒に巻き込んで送られてきた。礼状と共に本図に描かれた日本図がいかなる種類のものであるかを検討して後日報告することを李先生に約束していた。ところがそれを果たさないうちに先生は他界されてしまった。

写真で地名などを調べていたが、西日本では文字が比較的鮮明に読みとれたが、東日本ではピントが甘くて文字の判読に手古すり作業を中断していたところ、李先生の他界もあって本図の検討を放置する結果になっていた。今回、懸案の『海東三国図』を実見することができた。平井松午先生と吉田悠子さんの撮影した画像を見ながら目下、本図の内容を検討中であって、国絵図研究会金沢大会などにて検討結果を報告する予定である。

本ニュースには韓国大会の調査内容を磯永和貴氏と川村博忠氏にご執筆いただきました。韓国大会は杉本史子氏代表の科研と合同でしたので、以下の文献にも調査内容が掲載されています。あわせて、ご紹介いたします。

横地留奈子「ソウル所在諸機関所蔵古地図調査の記録—韓国国立中央博物館・ソウル歴史博物館・ソウル大学校奎章閣—」東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信, 52号, 2011年1月, 20~22頁。

【新刊紹介】

John Rennie Short 著: 小野寺淳・大島規江監訳『世界の地図の歴史図鑑』柊風舎。

(2010年11月, A4変形判, 224頁, フルカラー, 13,000円+税)

著者はメリーランド・ボルティモア・カウンティ大学公共政策学部教授。政治・経済地理学者であり、地図製作史にも造詣が深い。東アジアの地図の紹介が少ないなど物足りない面もあるが、これまでの地図史とは異なる観点から世界の地図史を編集した点に特色がある。著者割引で購入可能: 申し込み先: onodera@mx.ibaraki.ac.jp

♥常時原稿を募集いたします。メールでお送りいただけますとたいへん助かります。

ニュース編集担当・・・ 磯永和貴 〒751-0807 下関市一の宮学園町2-1
東亜大学人間科学部内 TEL: 0832-51-5177 E-mail: isonaga@toua-u.ac.jp